

35

病理診断科

特殊(専門)疾患

私たち病理医は、すべての臓器を対象とした幅広い分野の診断を担当しています。「Doctor of Doctors」と欧米では呼ばれており、臨床医からの診断依頼に応え、顕微鏡を駆使してさまざまな疾患の確定診断／最終診断を行っています。病理医が主に取り組んでいるのは、細胞診と組織診です。細胞診は、乳腺、子宮、気管支等から採取した細胞や、痰・尿に含まれる

細胞等を染色してスライドガラスに付着させ、顕微鏡を使って悪性の細胞がないかを調べるものです。一方、組織診は、手術や内視鏡検査などで採取した病変を薄くスライスして染色・ガラス標本化し、顕微鏡で観察して病変の性質や良悪の程度、病勢、広がりなどを診断します。

診療内容

金沢医科大学病院では、病院病理部／病理診断科がこうした標本作製の作業と診断を実施しています。診断は5人の病理医、細胞のスクリーニング(拾い上げ)と標本作製は細胞検査士の資格を持つ6人を含めた臨床検査技師が担当しています。地方でこれだけの数の病理スタッフをそろえる病院は数えるほどしかなく、人材育成も行う大学病院だからこその陣容です。病院病理部で行う細胞診は年間約8000件、組織診は年間約8500件です。大半が悪性腫瘍の検出や診断を目的にしていますが、炎症性疾患や膠原病、感染症の有無を調べる組織診も少なくありません。当院では病理外来も設けており、病変の広がりや性質・状態を病理医から直接患者さんに説明させていただくことができるほか、病理診断に関するセカンドオピニオンにも同外来で対応しています。

病理学は基礎医学であり、かつ臨床医学でありますので、基礎・臨床の各教室教室とは切り離せない存在です。ですので、教室・診療科を横断して幅広く交流を図ることができるのも病理診断科の非常に大きな強み、魅力であります。

特徴・特色

病理医はまた、分子標的薬を用いたがん治療にもかかわっています。がん細胞には正常な細胞とは異なる特徴が分子レベルで見られます。分子標的薬はそこを狙い撃ちしてがん細胞の増殖や転移を抑制する薬剤です。生検や手術で採取した組織を用いて事前に効果を予測することができ、病理医が遺伝子変異や特定のたんぱく質の発現の有無を調べ、分子標的薬が効くかどうかを判定します。当院では年間300件ほどの予測判定を実施しています。がん細胞にも個人差があり、分子標的薬がターゲットとする因子が現れないケースもありますが、一方で効果が期待できる因子が見つければがん治療の選択肢が広がり、患者さんに希望を持っていただけます。

このほか、病理解剖(剖検)も病理医にとって大切な仕事です。病理解剖は亡くなった患者さんをご家族の同意のもとに解剖して、治療の効果や臨床診断の妥当性、死因などを調べるもので、金沢医科大学病院では私たち病理医によって年間30～60例ほど行っています。解剖で得られた結果や情報は、CPCと呼ばれる院内検討会で討議され、関係した医師が知見を深めるほか、学生教育や医師の卒後教育にも生かされています。

TOPICS

「研究・診療面の成果を社会に発信し、また教育面でも社会へ大きく貢献していきたいとの強い思い、その進取の精神」

診療における病理診断や病理解剖を通じて、経験させていただいた「症例報告」の一例一例を積み重ねていくことに大変力を入れております。これは、診断力の向上という意味合いだけでなく、研究、特に動脈硬化・生活習慣病・癌の病態の解明にも、繋げたいという思いからでもあります。

病理sideからは、症例報告や臨床研究につながる日常の病理診断・病理解剖に真摯に取り組み、臨床各講座からの病理診断コンサルト、また各講座の病理学的研究のサポートをfootwork軽く積極的に行う、そのような基本姿勢から様々なsuggestionやideaを取り入れ、大型共同研究を進展させ、多くの大学院生への博士号取得に結実させております。

電話連絡先 **076-286-3511** (代表)
 内線/外来受付 **35348**
 医 局 **35057・35371**

責任者と診療スタッフ



科長/教授 | ヤマダ ソウスケ
山田 壮亮

専門分野 | 人体病理学・実験病理学

学 歴 | 2002年3月 産業医科大学医学部医学科 卒業、
 2008年3月 産業医科大学大学院医学研究科 生体適応系生体機構部門博士課程 修了

職 歴 | 2008年4月 産業医科大学助教(医学部第二病理学)
 2011年7月 産業医科大学講師(医学部第二病理学)
 2015年4月 Institute of Pathology, Medical University of Graz, Austria&Institute of Molecular Biosciences, University of Graz, Austriaへ留学
 2016年2月 鹿児島大学講師(大学院医歯学総合研究科病理学)
 2017年7月 金沢医科大学教授(臨床病理学)

九州から北陸の地にご縁をいただき、早六年となりました。わたくしは、北陸の名薬「反魂丹」に、強く心惹かれる一人なのです。「薬にもなれない奴は、毒になれ」、...座右の銘の一つとして、日々精進しております。ちなみに、江戸時代までは、「反魂丹」には「ヒ素」が少々入っていたそうでございます。



医師 医局長
 シオヤ アキヒロ
塩谷 晃広
 【専門分野】
 外科病理



担当医師名	役職	専門分野
クマガイ モトナ 熊谷 泉那	医師	外科病理
ホシ ダイスケ 星 大輔	医師	実験病理
ヤマグチ オヤマ タケル 山口(尾山) 武	医師	実験病理



- 1 循環器内科
- 2 心血管カテーテル治療科
- 3 心臓血管外科
- 4 末梢血管外科
- 5 小児心臓血管外科
- 6 呼吸器内科
- 7 呼吸器外科
- 8 消化器内科(肝胆膵・消化管)
- 9 一般・消化器外科
- 10 乳腺・内分泌外科
- 11 腎臓内科
- 12 泌尿器科
- 13 糖尿病・内分泌内科
- 14 血液・リウマチ膠原病科
- 15 脳神経内科
- 16 脳神経外科
- 17 腫瘍内科
- 18 高齢医学科
- 19 小児科
- 20 小児外科
- 21 神経科精神科
- 22 心身医学科
- 23 放射線科
- 24 放射線治療科
- 25 整形外科
- 26 形成外科
- 27 眼科
- 28 耳鼻咽喉科
- 29 頭頸部・甲状腺外科
- 30 皮膚科
- 31 産科婦人科
- 32 麻酔科
- 33 リハビリテーション医学科
- 34 救命救急科
- 35 病理診断科
- 36 感染症科
- 37 歯科口腔科
- 38 健康管理センター
- 39 認知症センター
- 40 摂食・嚥下センター
- 41 小児高度外科医療センター
- 42 集学的がん治療センター
- 43 総合診療センター
- 44 睡眠医学センター
- 45 女性総合医療センター
- 46 再生医療センター
- 47 ゲノム医療センター